

ことよりも、苦しむ人に寄り添うことが、私の使命とわかりました

高部知子さん(42)

67年、東京都生まれ。81年、NHK銀河テレビ小説「ガラスのうさぎ」主演デビュー。ユニット「わらわ」の長女。のぞみ後で人気を博す認定心理士、精神保健福祉士の資格を取得

新宿区百人町の戸山団地。住人の半数が65歳以上で、年間10人以上のお年寄りが孤独死をされています。この団地の地域内での問題に直面し、一人でも多くの老人を救おうと、NPO法人「人と人をつなぐ会」のメンバーとして元アイドルの高部知子さんが今は精神保健福祉士として活動されています。

15歳のときに世間を騒がせた写真週刊誌事件。STORY世代なら記憶に残っておられる方も多いのでは？13歳のときドラマ「ガラスのうさぎ」でデビュー後、ユニット「わらわ」の一員として人気絶頂の時期、タバコをくわえた一枚の写真が、その後の運命を大きく変えることになりました。



「当時、主演した『積み木くずし』を真似て、友達とふざけて撮っただけでしたが、15歳だった私は弁解や釈明をすることがすらわからなくて、事の大きさに気づくまでしばらく時間がかかったくらいだったんです」

「98%の人にそう思われていたように、石を投げられたこともありましたが、いろんな誤解があつていろいろなことを言われました。でも、手のひらを返した大人もいたけれど、いっぱい大人の方向に守っていただいたことが、これまで大きな支えとなりました」

「もう事件のことはどうでもよかったです。それよりも友達がいなくなったことに責任を感じ、私だけが生き延びていることに打ちのめされてしまつたんです。ほんとに辛かったですね」

精神保健福祉士として、闘り今。



事件当時は校門前の通りにもマスクが張りついて、裏口から出入り。でも校内に入ると普通の高校生でいられたことに助けられました。

「生活費も必要でしょう？何をすべきかと考えると、高校生のときの友人の死と、子供の病気で命と向き合い、命に関わる仕事かと思つたようになっていたんです。この頃は、子供の病状も落ち着き、どこで勉強できるのか探し、離婚直後に取っ掛かりとして、心理学研究所へ。3年間かけて認定心理士になりました」

40代は、これまでの人生を社会に還元できる年齢

勉強熱心な高部さんは、次々と勉強への欲求が芽生えます。最終目的を、国家資格である精神障害者を擁護する精神保健福祉士に定め、そのためには

「資格を取ったものの、どうやって働くかはインターネットで検索しました。市役所に勤めるか、事務所を作るのか、そんなふうによく迷つていました。偶然テレビのドキュメンタリーで「人と人をつなぐ会」の存在と戸山団地の孤独死のことを知りました」

「早く40代になりたかつたんです。それまでの人生をまとめて社会に還元できる年齢で、何かが熟成し始めるのが40代でしょ？美しくあること、人気者であることより、苦しむ人に寄り添うことが私の使命とはっきりわかりました」

「早く40代になりたかつたんです。それまでの人生をまとめて社会に還元できる年齢で、何かが熟成し始めるのが40代でしょ？美しくあること、人気者であることより、苦しむ人に寄り添うことが私の使命とはっきりわかりました」



孤独死対策として、24時間電話相談や携帯電話サービスの普及に努めています。高部さんは理事として広報を担当しています。



NPO法人「人と人をつなぐ会」の会長の本庄有由さんと副理事長の竹原のぞみさん。会の最大のテーマは、孤独死を出さないこと。



障害者の地域で着用できるユニット製品を製作されている「ひびくや編物」の斎藤佳代さん。高部知子さんは、福祉に対する姿勢を教えるつもりでした。(斎藤佳代さん作品ルームより)

ほぼ全金庫大プレゼント!!
41-42
-詳細はP.23へ

42 hanky panky キャミソール

41 サルソマージュール エモリエント バスソルト

私の座右の銘。

かんなんしんく 難難辛苦
なんじ たま 汝を玉にす

「苦しいこと辛いことこそあなたを玉のように輝かすよ」と恩師に励まされました。15歳の私にはちんぷんかんぷんでしたが、ずっとここを目指してきたと思います。